

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4984541号  
(P4984541)

(45) 発行日 平成24年7月25日 (2012. 7. 25)

(24) 登録日 平成24年5月11日 (2012. 5. 11)

(51) Int. Cl.

F 1

**B 6 5 D 47/06 (2006. 01)**

B 6 5 D 47/06 F

**B 6 5 D 41/26 (2006. 01)**

B 6 5 D 41/26

**B 6 5 D 47/40 (2006. 01)**

B 6 5 D 47/40 B

**B 6 5 D 33/38 (2006. 01)**

B 6 5 D 33/38

請求項の数 7 (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2006-10847 (P2006-10847)  
 (22) 出願日 平成18年1月19日 (2006. 1. 19)  
 (65) 公開番号 特開2007-191190 (P2007-191190A)  
 (43) 公開日 平成19年8月2日 (2007. 8. 2)  
 審査請求日 平成21年1月7日 (2009. 1. 7)

(73) 特許権者 000003768  
 東洋製罐株式会社  
 東京都品川区東五反田2丁目18番1号  
 (74) 代理人 100094813  
 弁理士 庄子 幸男  
 (72) 発明者 相川 孝之  
 神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70  
 東洋製罐株式会社開発本部内  
 (72) 発明者 石坂 公一  
 神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70  
 東洋製罐株式会社開発本部内  
 (72) 発明者 小沢 和美  
 神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70  
 東洋製罐株式会社開発本部内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 注出容器及びその詰替用の袋状容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

容器の口部に装着する注出キャップ部と、該注出キャップ部上に立設して上蓋を兼ねる計量キャップを装着する外環壁と、該外環壁内側に位置し、前記注出キャップ部に仕切壁を隔て設けた注出筒とを有してなる注出容器において、前記注出筒はその横断面形状を頂角と両底辺からなる二等辺三角形を基本形状とする砲弾形状とし、その横断面における両二等辺に位置する筒壁外面のそれぞれに、前記詰替用の袋状容器の装着深さを規制する上下方向に帯状のストッパーが形成されており、且つ前記注出筒の端部形状は前記頂角を頂点とし外側に湾曲させた状態で傾斜させて形成してなることを特徴とする注出容器。

【請求項 2】

前記注出筒に連なる前記仕切壁に複数の孔を設け、前記仕切壁内外に流体を流通自在にした請求項 1 記載の注出容器。

【請求項 3】

前記複数の孔は、前記注出筒の頂角側から両底角側に前記容器のある方向に傾斜させてなる仕切壁に、これの最深部から最浅部にかけて分散させて設けた請求項 1 または 2 記載の注出容器。

【請求項 4】

前記頂角が 60 度未満であり、前記両底角が 60 度超である請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項記載の注出容器。

【請求項 5】

10

20

請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項記載の注出容器に対する詰替用の袋状容器であって、該袋状容器の開口部の内周長さは前記注出容器の注出筒の外周長さより大であることを特徴とする詰替用の袋状容器。

【請求項 6】

前記袋状容器の開口部に開封用タブを設けた請求項 5 記載の詰替用の袋状容器。

【請求項 7】

前記開封用タブに隣接し且つ内容物の収容側に位置する前記開口部に、前記注出容器の注出筒に挿入を支援するための挿入用タブを設けた請求項 5 または 6 記載の詰替用の袋状容器。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本発明は、洗剤、柔軟剤、漂白剤、入浴剤などの主として液状の内容液を収容する容器に装着する注出キャップを備えた注出容器並びに内容液を消費した後の詰替用の袋状容器に関するものであり、より詳しくは、内容液の詰め替え時に、注出キャップと詰替用の袋状容器との係合を液漏れのない状態に容易に保持出来るようにした注出容器及びその詰替用の袋状容器に関する。

【背景技術】

【0002】

洗剤などの内容液を収容する容器は、液だれを極力抑えるために、その口部に注出筒を有した注出キャップが装着され、さらに、この注出キャップには、通常、蓋を兼ねた計量キャップが装着されている。そして、容器の内容液は、計量キャップにより計量されてから消費されるようになっており、内容液が無くなれば、通常、詰替用の袋状容器から該容器に内容液を詰め替えることがおこなわれる。これは、容器に内容液を詰め替えれば、容器、注出キャップ及び計量キャップを何度でも使用することが可能であり、その上、詰替用の袋状容器の方が廃棄ゴミを少しでも減らし且つ安価であることによる。このように、容器に詰替用の袋状容器から内容液を詰め替える技術として、下記に示すものが知られている。

20

【0003】

特許文献 1 の技術は、図 9 に示すように、容器 a の口部 b に注出キャップ c を装着してあり、この注出キャップ c は、キャップ部 d 上に立設して計量キャップを装着する外環壁 e と、この外環壁 e 内側に位置しキャップ部 d に仕切壁を隔て設けた注出筒 f とを有してなり、外環壁 e 上面に詰替用の袋状容器 g の位置決め用の切欠を設けている。そして、容器 a に袋状容器 g の洗剤などの内容液を詰め替えるには、まず、正立状態の袋状容器 g を開封し、開口注出口 h を形成し、その開口注出口 h に容器 a の口部 b に装着された注出キャップ c の注出筒 f を、その切欠にて位置決めして差し込み、その状態で容器 a を正立状態に、袋状容器 g を倒立状態となるように回転させ、袋状容器 g の内容液を注出筒 f を通して容器 a 内に詰め替えるものである。

30

【0004】

特許文献 2 の技術は、図 10 に示すように、容器 a の口部 b に注出キャップ c を装着して、さらに注出キャップ c に計量キャップ i を装着しこの計量キャップ i に補助注出部材 j を装着してある。そして、容器 a に詰替用の袋状容器の洗剤などの内容液を詰め替えるには、まず、正立状態の容器 a の口部 b から計量キャップ i と共に補助注出部材 j を外して、さらに計量キャップ i から補助注出部材 j を外す。一方、正立状態の袋状容器を開封し開口注出口を形成し、その開口注出口に補助注出部材 j を嵌め、この補助注出部材 j から注出キャップ c を通して、あるいは直接口部 b より袋状容器の内容液を容器 a 内に注いで詰め替えるものである。

40

【0005】

特許文献 3 の技術は、図 11 に示すように、容器の口部に注出キャップ c を装着し、この注出キャップ c はキャップ部 d 上に立設して計量キャップを装着する外環壁 e と、キャ

50

ップ部 d に仕切壁 k を隔て設けた注出筒 f とを有してなり、この注出筒 f の側壁に内外を連通するスリット m を設け、内容液の粘度によりこのスリット m の幅を下側 m 1 より上側 m 2 の方が広くなるように段階的に形成したものである。そして、容器に詰替用の袋状容器の洗剤などの内容液を詰め替えるには、注出筒 f の幅広の上側スリット m 2 に開封した袋状容器の開口注出口を挿入して、容器に内容液を注ぎ込むものである。

#### 【0006】

特許文献 4 の技術は、図 12 に示すように、容器 a の口部 b にネジ n を螺刻し、同じように詰替用の袋状容器 g の開口注出口にも螺合するネジ o を螺刻して、さらに袋状容器 g の底にエア抜キシール p を貼着してある。そして、容器 a に袋状容器 g の洗剤などの内容液を詰め替えるには、容器 a の口部 b に袋状容器 g の開口注出口をネジ接合し、容器 a

10

#### 【0007】

【特許文献 1】特開平 11-236068 号公報

【特許文献 2】特開 2000-191007 号公報

【特許文献 3】特開 2001-354253 号公報

【特許文献 4】特開 2004-161293 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

#### 【0008】

20

ところが、特許文献 1 の技術は、容器 a に袋状容器 g の内容液を詰め替えるのに、正立状態の袋状容器 g の開口注出口 h に注出キャップ c の注出筒 f を差し込むものであるから、容器 a は倒立状態となり、容器 2 に内容液が少量でも残っていると、余程素速く差し込まない限り内容液がこぼれ出て、周囲を汚してしまうという虞がある。

#### 【0009】

また、特許文献 2 の技術は、正立状態の袋状容器の開口注出口に補助注出部材 j を嵌めて、この補助注出部材 j から袋状容器の内容液を容器 a に注ぐから、多少詰め替えやすくなるという利便性はあるものの、計量キャップ i から補助注出部材 j を外し開口注出口に嵌める作業があるため、補助注出部材 j を紛失する虞もあり、なおかつ、注出キャップ c あるいは口部 b に補助注出部材 j を当てて内容液を容器 a に注ぐから、特に高齢者では手ぶれにより内容液をこぼす虞がある。

30

#### 【0010】

また、特許文献 3 の技術は、高粘度の内容液を注出キャップ c から溢れさすことなく、注出キャップ c を通じて容器に注ぎ込み詰め替えるものであるが、手ぶれなどにより内容液をこぼすことなく、容器 a に袋状容器の内容液を容易に詰め替え得るものではない。

#### 【0011】

さらに、特許文献 4 の技術は、容器 a の口部 b に袋状容器 g の開口注出口をネジ接合する作業過程で、袋状容器 g 内に空気が入り易く内容液と置換して、内容液が外部にこぼれ出る虞がある。

#### 【0012】

40

以上のように、従来知られた詰め替え可能な注出容器は、それぞれ詰め替え時の係合状態が不十分であるという不都合がある。

そこで、本発明の目的は、内容液の粘度にかかわらず、詰替用の袋状容器から内容液を容器内に詰め替える際、内容液をこぼすことなく、容易且つ速やかにその全量を詰め替えることが出来る注出容器及びその詰替用の袋状容器を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

#### 【0013】

本発明は、上記目的を達成するために提案されたものであって、下記の構成からなることを特徴とするものである。

すなわち、本発明によれば、容器の口部に装着する注出キャップ部と、該注出キャップ

50

部上に立設して上蓋を兼ねる計量キャップを装着する外環壁と、該外環壁内側に位置し、前記注出キャップ部に仕切壁を隔て設けた注出筒とを有してなる注出容器において、前記注出筒はその横断面形状を頂角と両底辺からなる二等辺三角形を基本形状とする砲弾形状とし、その横断面における両二等辺に位置する筒壁外面のそれぞれに、前記詰替用の袋状容器の装着深さを規制する上下方向に帯状のストッパーが形成されており、且つ前記注出筒の端部形状は前記頂角を頂点とし外側に湾曲させた状態で傾斜させて形成してなることを特徴とする注出容器が提供される。

【0015】

また、本発明によれば、前記注出筒に連なる前記仕切壁に複数の孔を設け、前記仕切壁内外に流体を流通自在にした注出容器が提供される。

10

【0016】

また、本発明によれば、前記複数の孔は、前記注出筒の頂角側から両底角側に前記容器のある方向に傾斜させてなる仕切壁に、これの最深部から最浅部にかけ分散させて設けた注出容器が提供される。

【0017】

前記頂角が60度未満であり、前記両底角が60度超である上記注出容器が提供される。

【0018】

また、本発明によれば、前記注出容器に対する詰替用の袋状容器であって、該袋状容器の開口部の内周長さは前記注出容器の注出筒の外周長さより大である詰替用の袋状容器が提供される。

20

【0019】

また、本発明によれば、前記袋状容器の開口部に開封用タブを設けた上記詰替用の袋状容器が提供される。

【0020】

また、本発明によれば、前記開封用タブに隣接し且つ内容物の収容側に位置する前記開口部に、前記注出容器の注出筒に挿入を支援するための挿入用タブを設けた詰替用の袋状容器が提供される。

【発明の効果】

【0021】

30

本発明の容器は、注出容器の注出筒に、これを覆うように開封した後の詰替用の袋状容器の開口部を差し込むと、頂角により開口部を押し開いて行き、覆うような状態で注出筒に開口部を装着することになり、その際、両底角により開口部をロックすることになって抜けずづらく、且つ注出筒の外側に湾曲した端部形状により液漏れしづらくなって、注出容器に袋状容器の内容液を注ぎ込み詰め替えることが出来る。したがって、内容液の粘度にかかわらず、袋状容器から内容液を注出容器に詰め替える過程で、内容液をこぼすことなく、容易且つ速やかにその全量を詰め替える効果がある。

【0022】

また、本発明の容器は、注出容器の注出筒に詰替用の袋状容器の開口部にて覆うような状態で装着する際、注出筒の筒壁の外部に形成した上下方向に形成された帯状のストッパーにより装着深さを規制して、袋状容器の内溶液残量を減らし、ストッパーを動支点として袋状容器を揺動させながら、残った内溶液をスムーズに排出することができる。したがって、上記効果に加えて、注出容器に袋状容器の内容液を残さず詰め替える効果がある。

40

【0023】

また、請求項2に規定した本発明の容器は、注出容器に詰替用の袋状容器の内容液を注ぎ込み詰め替える過程で、仕切壁の複数の孔により注出容器内の空気が置換して内容液が流入するように構成されている。その一方で、詰替過程で注出容器の外環壁内の仕切壁上に内容液がこぼれ溜まっても、複数の孔から注出容器内に流入するため、上記効果に加えて、より注出容器に内容液をスムーズに詰め替えでき、その詰替過程で内容液が外部にこ

50

ばれることがないという効果がある。

【0024】

また、請求項3に規定した本発明の容器は、複数の孔が傾斜した仕切壁の最深部から最浅部にかけて分散しているため、詰替過程で注出容器の仕切壁上にこぼれ溜まった内容液により、全ての孔を同時に塞ぐことがなく、注出容器に詰替及びこぼれた双方の内容液が流入するようになっている。したがって、上記効果に加えて、より注出容器に内容液をスムーズに詰め替えでき、その詰替過程での内容液が外部にこぼれることが皆無となる。

【0025】

また、請求項4に規定した本発明の容器は、頂角を60度未満にし、両底角を60度超に構成することにより、上記効果が一層優れたものになる。

10

【0026】

また、請求項5に規定した本発明の容器は、袋状容器の開口部の内周長さを前記注出容器の注出筒の外周長さより大にし、注出筒にこれを覆うように被せ装着するように構成されているため、上記効果に加えて、開口部の開封が容易であり、注出筒に開口部を無理なく装着することが出来る。且つ少なくとも注出筒の外径よりも開口部を大きく開いて装着できるため、開口部が閉塞することがなく、その後の内容液の詰替を短時間にすることが出来るという効果がある。

【0027】

また、請求項6に規定した本発明の容器は、上記詰替用の袋状容器における開口部を開封用タブにより開封できるようにしたものであり、請求項4に規定する袋状容器の効果に加えて、開封後の操作性をより一層向上させることができる。

20

【0028】

また、請求項7に規定した本発明の容器は、挿入用タブを手指でつかみ、これにより、注出容器の注出筒に詰替用の袋状容器を挿入することが出来るように構成されている。そのため、挿入用タブは開口部の開封端部から離れているから、手指が内容液に触れることがなく、スムーズに注出筒に開口部を挿入することができる効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0029】

以下に、図面を参照して本発明を実施するための最良の形態を説明する。

【実施例1】

30

【0030】

図1は本発明に係る注出容器に詰替用の袋状容器を装着した状態を示す側面図、図2は本発明の注出容器の断面図、図3は本発明の注出容器の平面図、図4は本発明の詰替用の袋状容器の平面図である。

これらの図面において、注出容器1は、容器2と、その口部3に装着する注出キャップ4とからなり、この注出キャップ4は、口部3に装着する注出キャップ部5と、この注出キャップ部5上に立設して上蓋を兼ねる計量キャップ6を装着する外環壁7と、この外環壁7内側に位置し注出キャップ部5に仕切壁8を隔て設けた注出筒9とを有してなり、この注出筒9はその横断面形状を頂角10が60度未満で両底角11、11が60度越えの二等辺三角形の砲弾形状とし、且つ注出筒9の端部形状は頂角10を頂点とし外側に湾曲させた状態で傾斜させて形成してなり、注出筒9に図4に示す詰替用の袋状容器12の開口部13を被せ装着しその内容物の詰め替え中、前記した両底角11により袋状容器12をロックして抜けずらくしたものである。そして、この注出容器1は、容器2の口部3に注出キャップ4を装着し、さらに注出キャップ4自身の外環壁7に上蓋としての計量キャップ6を装着した状態で使用される。

40

【0031】

前記容器2は、胴部20に取手21を有し、内容液を前記計量キャップ6にて計量する際、注ぎ易くしている。したがって、内容液は、主に洗剤、柔軟剤、漂白剤、入浴剤などの使用量を計量する性質のものであるが、特に限定されるものではない。そして、容器2の口部3にネジが螺刻されて、注出キャップ4が螺着脱自在に装着されている。この容器

50

2の材質は合成樹脂であり、例示すれば、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレートなどである。

#### 【0032】

前記注出キャップ4は、その注出キャップ部5が、天板22とその外周縁に連なる外筒23とから構成され、外筒23の内周面にネジ24が螺刻され、外周面にすべり止め25が付けられ、上述のように、容器2の口部3に螺着脱自在となっている。

前記外環壁7は、注出キャップ部5の天板22上に立設し、この外環壁7の外周面にはネジ26が螺刻され、前記計量キャップ6が螺着脱自在に装着される。

#### 【0033】

前記仕切壁8は内筒30とその下端に連なる傾斜底板31とからなり、この内筒30は上記注出キャップ部5の外筒23と相俟って、容器2の口部3を封止する。一方、傾斜底板31には前記注出筒9が立設し容器2内と連通し、さらに傾斜底板31は、注出筒9の頂角10側から両底角11側に前記容器2のある方向に傾斜し、この傾斜底板31の最深部から最浅部にかけて複数の孔32が分散して設けられている。

#### 【0034】

したがって、仕切壁8の傾斜底板31内外に流体が流通自在となっているので、注出容器1に詰替用の袋状容器12の内容液を注ぎ込み詰め替える過程で、上記した複数の孔32により注出容器1内の空気が置換して、内容液がスムーズに注出容器1内に流入する。その一方で、詰替過程で注出容器1の仕切壁8上に内容液がこぼれ溜まっても、複数の孔32から注出容器1内に流入して回収される。その際、複数の孔32は仕切壁8の傾斜底板31の最深部から最浅部にかけて分散しているから、詰替過程で仕切壁8の傾斜底板31上にこぼれ溜まった内容液により、全て複数の孔32を同時に塞ぐことが無く、注出容器1内に詰替及びこぼれた双方の内容液が極めてスムーズに流入して回収される。例えば、動粘度約 $200\text{ mm}^2/\text{s}$ の洗剤 $1000\text{ ml}$ を詰め替えるのに、仮に、洗剤 $2\text{ ml}$ が注出容器1の仕切壁8上にこぼれ溜まり、複数の孔32の開口面積と同面積の一の孔を設けた場合と比較すると、図3のように複数の孔32が分散している場合は10秒ほどで詰め替えができるのに、一の孔では30秒ほどかかる。

#### 【0035】

この注出筒9は、上述のとおり、注出キャップ部4に仕切壁8を隔て設けられ、その注出筒9の横断面形状は、頂角10が60度未満であり、両底角11が60度を越えた二等辺三角形の砲弾形状である。頂角10及び両底角11は、角を取り丸みを帯びさせ、両二等辺及び底辺に位置する筒壁33及び34は外方に湾曲している。そして、注出筒9の端部形状は、頂角10を頂点とし外側に湾曲させた状態で、両底角11に向かって傾斜させ形成してなるものである。

#### 【0036】

したがって、この注出筒9に、これを覆うように開封した後の詰替用の袋状容器12の開口部13を差し込むと、頂角10により柔軟性のある開口部13を押し開いて行き、覆うような状態で注出筒9に開口部13を装着することになり、両底角11により柔軟性のある開口部13をロックすることになって、抜けずづらくなる。且つ、注出筒9の端部形状が外側に湾曲しているから、その筒壁33及び34と開口部13の内周面との接触面積が増し、その分、液漏れが抑制される。したがって、袋状容器12から内容液を注出容器1に詰め替える過程で、注出筒9から開口部13が抜けることによる内容液のこぼれがなくなり、筒壁33及び34と開口部13の内周面との密着不十分による液漏れもしづらくなる。

#### 【0037】

また、注出筒9の両筒壁33、33には、ストッパー35、35が設けられ、詰替用の袋状容器12の装着深さを規制している。したがって、注出容器1の注出筒9に袋状容器12の開口部13を装着する際、両筒壁33のストッパー35により装着深さを規制することで、袋状容器12の内容液残量を減らすことができ、ストッパー35を動支点として袋状容器12を揺動させ得るから、袋状容器12内に残った内容液を完全に詰め替えする

ことができる。

#### 【0038】

前記詰替用の袋状容器12は、図4に示すように、流体バリアー性の強い材質の2枚の胴部材用のフィルム40と1枚の底部材用のフィルム（図示せず）の外周縁をシールしてなるものであり、内容液を収容する胴部41と内容液を注出する開口部13とからなり、胴体41の底42はスタンディングポーズを取れる構造となっている。そして、この袋状容器12の開口部13の内周長さは、注出容器1の注出筒9の外周長さよりも大に形成され、開口部13を開封した後、注出筒9に開口部13を覆うように被せるようにしている。したがって、注出筒9に開口部13を無理なく装着出来、且つ少なくとも注出筒9の外周長さよりも開口部13を大きく開いて装着出来るから、その後の内容液の詰替作業を短時間に行うことが出来る。

10

#### 【0039】

また、前記開口部13には開封用タブ43が設けられ、さらに、この開封用タブ43に隣接し且つ内容物の収容側に位置する開口部13に、注出容器1の注出筒9に挿入を支援するための挿入用タブ44が設けられている。この構成によって、袋状容器12の開口部13を開封用タブ43により容易に開封でき、注出筒9の外周長さより大の内周長さである開口部13により、注出筒9にこれを覆うように被せ装着することもできる。その装着の際、挿入用タブ44を手指でつかみ、開口部13を注出筒9にスムーズに挿入することができ、その上、挿入用タブ44は開口部13の開封端部から離れているから、手指が内容液に触れることも無い。なお、この袋状容器12の材質は、ポリエチレン、またはポリプロピレンなどの単体または積層フィルムからなる合成樹脂製フィルムであり、層中にガスバリア層等が含まれていてもよい。

20

#### 【0040】

また、この開口部13は、図4の2点鎖線で示すように、その先端部13aを内側に湾曲させて切断して開封する。この開口部13の先端の内側湾曲開口46により、注出筒9に被せた後の開口部13をスムーズに押し広げるから、注出筒9に開口部13を短時間で装着できる。

#### 【0041】

次に、上記構成になる注出容器1及びその詰替用の袋状容器12の使用方法について説明する。

30

注出キャップ4は内容液が充填された容器2の口部3に螺着されて注出容器1を構成し、さらに注出キャップ4の環状壁7には上蓋を兼ねる計量キャップ6が螺着されている。注出容器1における容器2の内容液を使用する場合は、注出キャップ4から計量キャップ6を螺脱して、計量キャップ6に注出キャップ4の注出筒9から内容液を必要量注ぎ入れて使う。容器2の内容液をほぼ消費しきったら、容器2に詰替用の袋状容器12から内容液を詰め替えることが出来る。

#### 【0042】

この詰替作業は以下の通りである。

まず、図1の状態の注出容器1における容器2の口部3に螺着している注出キャップ4から計量キャップ6を螺脱し、スタンディングポーズの詰替用の袋状容器12から、その開封用タブ43を手指でつかみ、開口部13の先端部13aを内側湾曲開口46を形成するように切断して開封する（図5参照）。次に、挿入用タブ44を手指でつかみ、袋状容器12における開口部13の内側湾曲開口44に、注出キャップ4における注出筒9の頂角10をあてがい、内側湾曲開口46がストッパー35に当たるまで差し込む（図6、7参照）。

40

#### 【0043】

この状態では、注出筒9の両底角11により柔軟性のある開口部13をロックすることになって、抜けづらくなり、注出筒9の筒壁33及び34と開口部13の内周面との接触面積が増し密着しているから、液漏れもしない。その後、袋状容器12を傾けながら注出容器1を正立状態にしてから、さらに袋状容器12を傾けて、内容液45を開口部13、

50

注出筒 9 を通して容器 2 1 内に注ぎ込むことが出来る (図 8 参照)。この際、例え、内容液の粘度が高いものであっても、開口部 1 3 が大きく開口し、複数の孔 3 2 により容器 2 内の空気を置換しているから、開口部が閉塞することではなく短時間で内容液 4 5 の詰替を終えることが出来る。

#### 【0044】

一方、仕切壁 8 に内容液 4 5 がこぼれ残留しても、傾斜底板 3 1 の最深部から最浅部にかけて分散して設けた複数の孔 3 2 により、内容液 4 5 が容器 2 内に直ちに戻りつつ、同時に容器 2 内の空気を置換しているから、袋状容器 1 2 からの内容液 4 5 を詰め替えつつ、仕切壁 8 にこぼれ残留した内容液 4 5 も容器 2 内に受け入れ、外部にこぼれることはない。次いで袋状容器 1 2 の内容液 4 5 が無くなったことを確認した後、注出筒 9 から袋状容器 1 2 を外し、注出キャップ 4 に計量キャップ 6 を螺着すれば、詰替作業は終了する。したがって、容器 2、注出キャップ 4 及び計量キャップ 6 は再利用され、袋状容器 1 2 のみが廃棄処分される。なお、袋状容器 1 2 の内容液 4 5 の確認時に、袋状容器 1 2 に内容液 4 5 がわずかに残留しているような場合には、前記ストッパー 3 5 を動支点として袋状容器 1 2 を揺動させて、袋状容器 1 2 内に残った内容液 4 5 を完全に容器 2 内に詰め替えることができる。

#### 【0045】

以上、本発明の実施例 1 を説明したが、具体的な構成はこれに限定されず、本発明の要旨を逸脱しない範囲での変更は適宜可能であることは理解されるべきである。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0046】

本発明の注出容器及びその詰替用の袋状容器は、内容液の粘度が比較的高く、詰替に時間がかかり、そのためにどうしてもこぼし易くなるような場合に、利用可能性が極めて高くなる。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0047】

【図 1】容器の口部に注出キャップを装着して本発明の注出容器を形成した状態を示す側面図である。

【図 2】本発明の注出容器における注出キャップの断面図である。

【図 3】本発明の注出キャップの平面図である。

【図 4】本発明の詰替用の袋状容器の正面図である。

【図 5】本発明に係る注出容器及び詰替用の袋状容器の正立状態を示す斜視図である。

【図 6】本発明に係る注出容器に詰替用の袋状容器の内容液を詰め替える状態を示す斜視図である。

【図 7】本発明に係る注出容器に詰替用の袋状容器の内容液を詰め替える状態を示す斜視図である。

【図 8】本発明に係る注出容器に詰替用の袋状容器の内容液を詰め替える状態を示す斜視図である。

【図 9】従来例の側面図である。

【図 10】従来例の斜視図である。

【図 11】従来例の一部を断面した側面図である。

【図 12】従来例の使用状態を示す側面図である。

#### 【符号の説明】

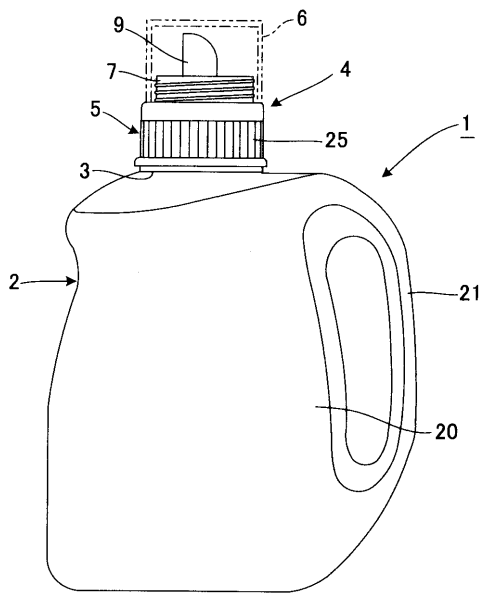
#### 【0048】

|      |         |
|------|---------|
| 1    | 注出容器    |
| 2, a | 容器      |
| 3, b | 口部      |
| 4, c | 注出キャップ  |
| 5,   | 注出キャップ部 |
| 6, i | 計量キャップ  |

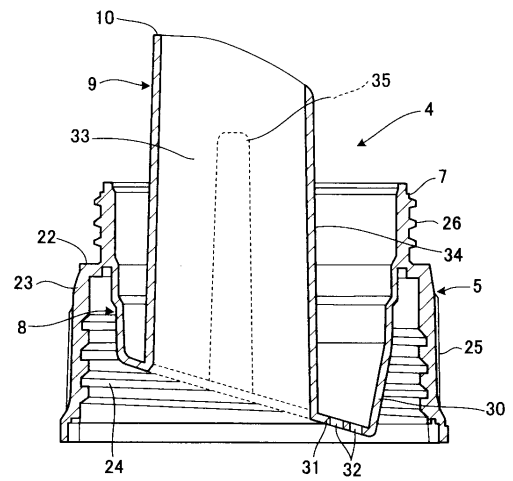


|              |          |    |
|--------------|----------|----|
| 7, e         | 外環壁      |    |
| 8, k         | 仕切壁      |    |
| 9, f         | 注出筒      |    |
| 10           | 頂角       |    |
| 11           | 底角       |    |
| 12, g        | 袋状容器     |    |
| 13           | 開口部      |    |
| 13a          | 先端部      |    |
| 20           | 胴部       |    |
| 21           | 取手       | 10 |
| 22           | 天板       |    |
| 23           | 外筒       |    |
| 24, 26, n, o | ネジ       |    |
| 25           | すべり止め    |    |
| 30           | 内筒       |    |
| 31           | 傾斜底板     |    |
| 32           | 孔        |    |
| 33, 34       | 筒壁       |    |
| 35           | ストッパー    |    |
| 40           | フィルム     | 20 |
| 41           | 胴体       |    |
| 42           | 底        |    |
| 43           | 開封用タブ    |    |
| 44           | 挿入用タブ    |    |
| 45           | 内容液      |    |
| 46           | 内側湾曲開口   |    |
| d            | キャップ部    |    |
| h            | 開口注出口    |    |
| j            | 補助注出部材   |    |
| m            | スリット     | 30 |
| m1           | 下側       |    |
| m2           | 上側       |    |
| p            | エアー抜きシール |    |

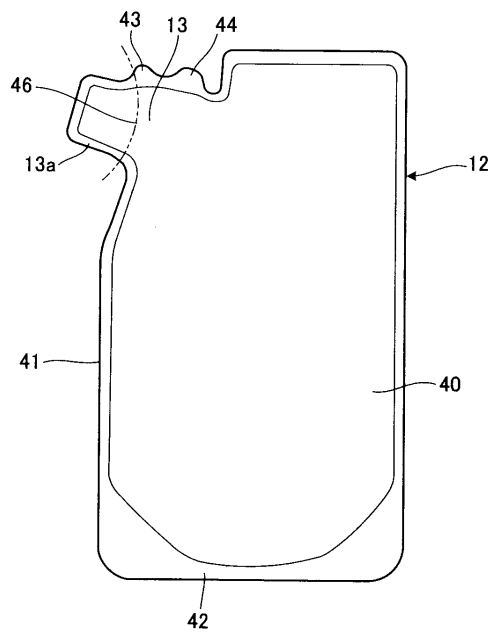
【図 1】



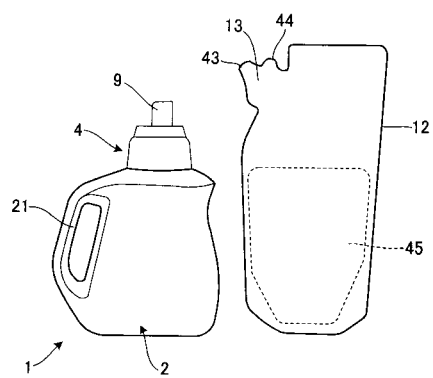
【図 2】



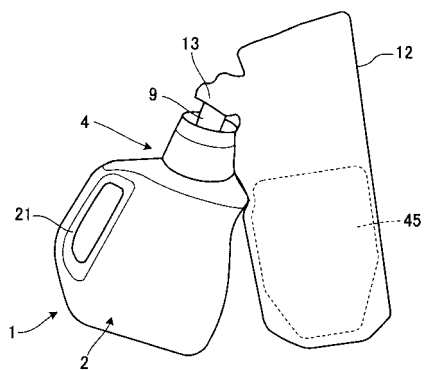
【図 4】



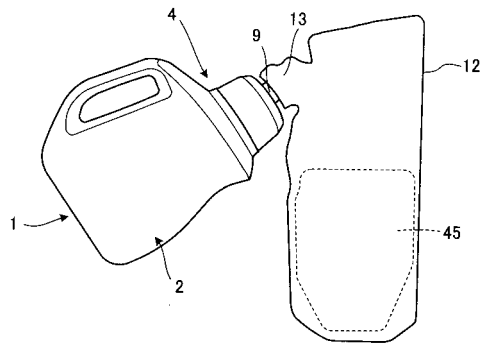
【図 5】



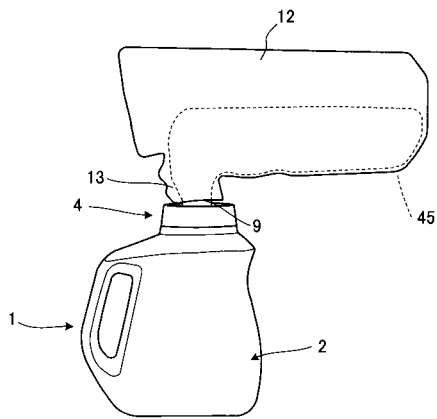
【図 6】



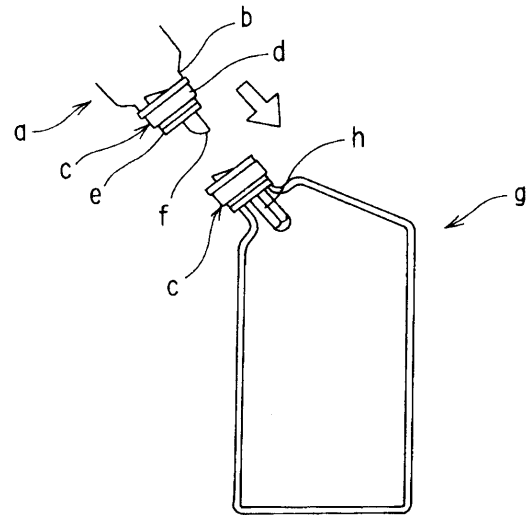
【図 7】



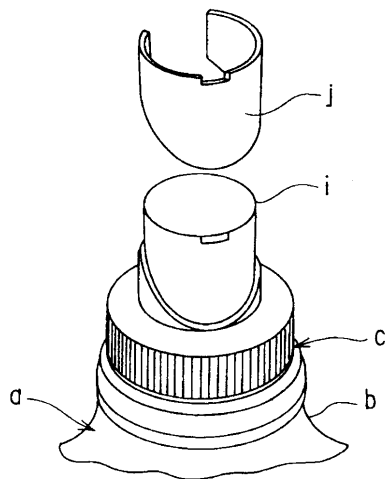
【図 8】



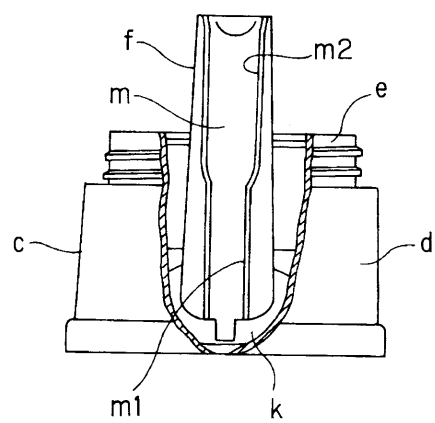
【図 9】



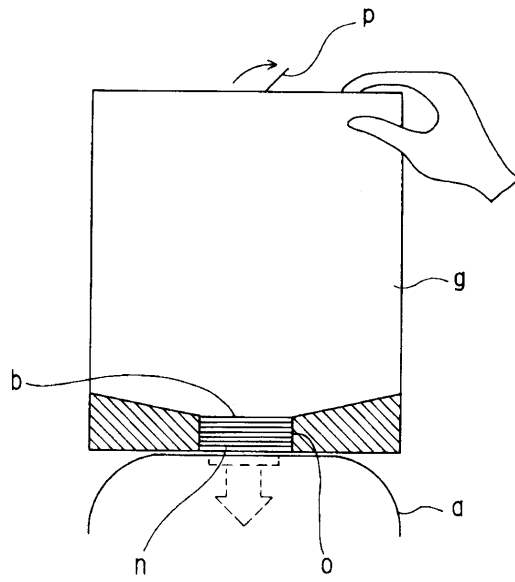
【図 10】



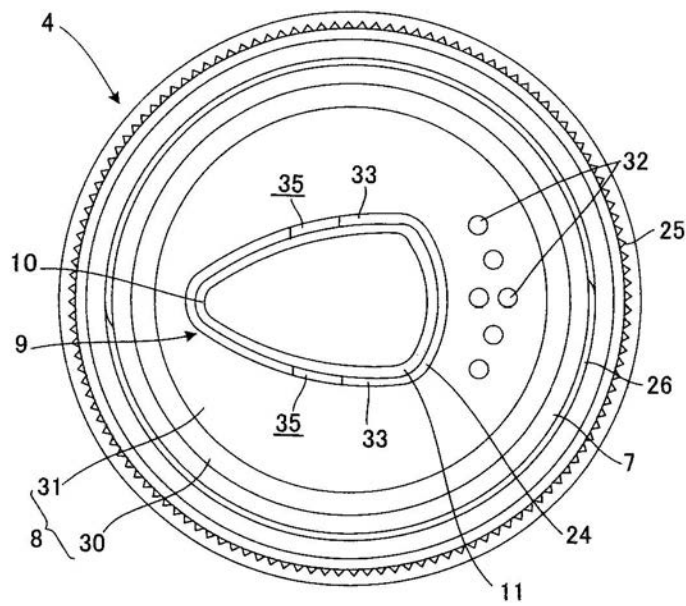
【図 11】



【図 12】



【図 3】



---

フロントページの続き

- (72)発明者 川上 総一  
神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70 東洋製罐株式会社開発本部内
- (72)発明者 金田 禎二郎  
神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70 東洋製罐株式会社開発本部内
- (72)発明者 山盛 陽  
神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70 東洋製罐株式会社開発本部内

審査官 高橋 裕一

- (56)参考文献 実開昭62-182256 (JP, U)  
実開平04-068832 (JP, U)  
特表2005-511433 (JP, A)  
特開平11-236068 (JP, A)  
特開2001-213448 (JP, A)  
特開2003-267403 (JP, A)  
特開平10-157747 (JP, A)  
実開昭62-078656 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
B65D35/44-35/54  
B65D39/00-55/16